

まちの散歩道

87



将棋は「指す」囲碁では「打つ」と言います。同好会では休日文化センターで参加者相互に対局して棋力向上を図り、他村との交流も行っています。老人会

寄り添って明日

囲碁将棋同好会副会長 福田 和夫さん (漆原西)

囲碁将棋部では今年も教室を開き、13人の子どもたちが寄り添って交互に対局しました。一段の進歩向上が見受けられ、学童県大会出場が期待される子どももおりました。

私が囲碁に興味を持ったのは白黒石に名も位階もなく平等に対局できることで、はや三十年になります。思

い出すのは、平成4年日本棋院伊香保支部大会で優勝杯を手にしたことです。その後は対局多くして進歩な

卒寿も過ぎれば人生に逃げ場はないし、言行を嚆(つぐ)む化石人間には成りたくありませんから若気に振

舞っています。義理は男に、人情は女性にふさわしいと言われませんが、川底の石ころのように水の流れに寄り添って生活するのが私の生にふさわしいと思っています。

して、スポーツをする環境の充実を願っております。特に八幡山グラウンドがどのようになるのか楽しみですので。



議会を傍聴して



青柳 修三さん (溝祭)

9月8日、9日に議会の一般質問を傍聴しに議場にだけきました。以前数回傍聴にいった時は二日間で10人位の議員の方々が質問さ

れていましたが、今回は一日に2人と少なかったのが印象的で、私はもつと大勢の議員の方の意見を聞きたかったのです。一方傍聴者も少なく残念に思います。

前回、桃井城址公園、八幡山グラウンド、駒寄インターの大型化に関する道路の拡充などを質問されました。野球連盟の一員として、これから少子高齢化社会へと変化していく時、住んで良かった、生涯住みたいまちへと導いていただきたいと思っています。



私とひとこと

「地の利」に加え地域コミュニティという定性的な部分が少なからず評価され、住みやすいまちとして人口増加につながっているのだとしたい。

人口増の謎を解く



田中 豊彦さん (漆原西)

過日、某新聞の地域版コラムに「吉岡町人口増の謎」と題した記事を目にした。記事の内容は、その増加率の理由が明確でなく、結局主要都市に近く地価も安い「地の利」を挙げているが、住む身としてはそれだけ・・・との思いがある。

「地の利」は確かに否定できない要因だが、新たに居を構えた人々と地域コミュニティの連携が比較的良好に機能しているのではとの思いがある。生活に関する相互扶助や地域の課題に対する意見調整など、新旧併せた世代間交流の場として地域コミュニティの役割は思いのほか大きい。「地の利」に加え地域コミュニティという定性的な部分が少なからず評価され、住みやすいまちとして人口増加につながっているのだとしたい。

よしお か クイズ No. 105

問1 9月定例会の会期は何日間だったでしょう。

A. 14日間 B. 16日間 C. 17日間

問2 一般質問は何人が行ったでしょう。

A. 4人 B. 5人 C. 6人

問3 人権擁護委員の任期は何年でしょう。

A. 2年 B. 3年 C. 4年

[応募方法]

★はがきに答えの記号(例1-A)、住所、氏名、年齢、職業(学校名)を書いてください。

★正解者の中から抽選で5人の方に、図書カードをプレゼントします。

★あて先

〒370-3692

吉岡町大字下野田560番地 役場議会事務局

★締め切り 12月1日(当日消印有効)

前回の正解は1-B・2-C・3-Bでした。

応募者の中から、抽選の結果次の方に図書カードを贈ります。(敬称略)

- ・竹田 利治(上野田) ・阿部 学(下野田)
- ・湯浅 光生(北下) ・有山佳奈実(大久保)
- ・小松かなで(大久保)

私生活ひとこと

報などで定期的に災害についての心構え、身を守る術などを取り上げてもらうことが大切ではないでしょうか。

一人一人の災害に対する意識を高めるためにも、広報などで定期的に災害についての心構え、身を守る術などを取り上げてもらうことが大切ではないでしょうか。

共に研修

～視察の受入～

県外から吉岡町議会へ視察に訪れました。

とき	訪れた市町村	視察内容
7月24日	埼玉県宮代町議会	議会だよりの編集について
8月5日	宮城県七ヶ浜町議会	議会だよりの編集について
8月20日	長崎県長与町議会	議会だよりの編集について



議場も視察(長崎県長与町)

初めての手話通訳



第3回定例会にて



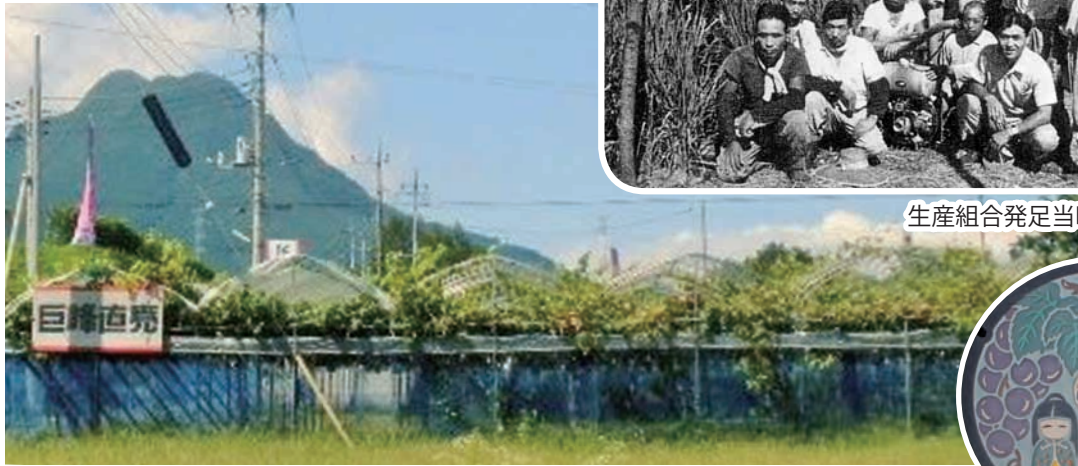
野村 陽子さん(南下)

災害を考える

年々地球温暖化による自然災害が深刻な問題になっています。群馬は幸いにして災害には無縁に近いですが、そのため災害に対しての危機感がかなり薄いのも現実です。いざという時、家族を、自分の身をどうやって守るのか、その時の備えはできているのか、ライフラインはどうなるのか、ふと、我家にある非常袋の中身を確認すると期限切れの物がほとんどでした。

一人一人の災害に対する意識を高めるためにも、広報などで定期的に災害についての心構え、身を守る術などを取り上げてもらうことが大切ではないでしょうか。

ふるさと再発見 ⑭



生産組合発足当時の皆さん



マンホール蓋のぶどう

昭和38年1月21日に、小倉ぶどう生産組合が産声を上げた。組合員17人（初代組合長：小林一郎さん）、出資金300万円、作付面積5.7ヘクタールでスタートした。

「榛名山麓に降り積もった火山灰の軽石混じりの痩せ地には葡萄しかない」と若い農業者の熱意に地域がまとまった。

佐藤賀之さんは『農協に500万円の融資をお願いに行った際に「大金だけどけえせるんかい」との問いに、「家屋敷を売ってでも俺たちはけえすと（故）大林喬任さんが震えながら切り返した。後に、喬任さんが「失敗したときの覚悟はある」と父を説得したと述べているが、組合員には失敗は絶対に許されなかった』と振り返る。

「小倉ぶどう郷」物語

小林正夫さんは、「普及所の内山十三さんの指導も、県とどちらが勤め先かわからないほど小倉のぶどう園に来てくれた」と県の強い協力があったと当時を懐かしむ。

佐藤一郎さんは、「山梨への技術研修も毎年行い、甲州に追いつけ！を合言葉に研修を重ねてきた。現在はピオーネなどの大粒種が主流だが、当時はデラウェアが売りものになることを願っていた」と語っている。

今では小倉のぶどうは、まちの特産品に成長し、マンホールの蓋の図柄として使用されている。

（小倉ぶどう生産組合
組合長：小林直二さん 組合員14人）

編集後記

9月定例会では、子ども子育て支援法と児童福祉法の規定に基づき、3件の保育事業と児童健全育成事業の設備と運営に関する基準を定める条例が可決、制定されました。これは、「子育てするなら吉岡」として、いるまちの少子化対策の一つとなる条例といえます。

議会は、子どもたちが安心・安全で、将来に向ってすくすくと育つような提言を行なつてまいります。

私たち編集委員は、子どもたちにも議会に興味を持つてもらえるように広報紙づくりに努力してまいります。

（岩崎信幸）

編集委員

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 平形 薫 |
| 副委員長 | 山畑 祐二 |
| 委員 | 馬場 周二 |
| | 宇都宮 敬三 |
| | 岩崎 信幸 |
| | 金谷 重男 |
| | 飯島 衛 |